

Shin

2015.11

vol. **05**

信頼の絆で共に伸びゆく新時代 — 全印工連の **CSR** マガジン



▼ CSR 認定企業紹介

アインス株

創業135年を機に原点に立ち返る

株ミドリ印刷

「いつも、何かのお役にたきたいと願っております。」

▼ CSR 元気企業紹介「この会社で学べ！」

株ムトウユニパック

▼ CSR トピックス

全印工連CSR認定ワンスター5社、ツースター2社認定

全印工連CSR認定制度 印刷文化典で特別賞を受賞

エコプロダクツ2015 12月10日からビッグサイトで

経済産業省 平成27年度なでしこ銘柄を選定開始

帝国データバンク マイナンバーに対する意識調査



全日本印刷工業組合連合会

アイNZ株式会社

本社：滋賀県蒲生郡竜王町鏡2291-3 創業：明治10年 従業員：236名
 代表者：大森七幸 認定取得：2013年6月 <http://www.shiga-web.or.jp/en/>

すべてのステークホルダーの “よかったSmile”のために。

——アイNZでは普段、どのような事業をしていますか。

大森 印刷業務においては、商業印刷とビジネスフォームの二つが大きな柱です。とくに近年では、新たな印刷メディアの開発を課題に、フォイル加工の上から同時にカラー印刷をおこなうことで、多彩な表現を可能としたコールドフォイル印刷「ブリリアント・アイ」に注力しています。コールドフォイル印刷から派生した

商品では、四角や丸といった定型ではなく、例えば熊の形を模った特型パッケージなどの展開をしています。

また、近年では、デジタルメディアが著しく伸張しているため、ウェブ制作やプログラム開発にも取り組んでいますね。

——印刷製品の高付加価値化、新たなメディアであるITの活用やメディアミックスは、印刷会社でも大きな課題になっています。

大森 成果の一つとしては、コールドフォイル印刷を使用した「AR付き暑中見舞いはがき」が、第11回アジアプリントアワードのプラチナスポンサー賞を受賞しました。

琵琶湖固有種の魚を模したDMを受け取ったときのインパクトが大きいのも特徴ですが、「びわ湖大花火大会」の動画をAR（拡張現実）で見

ることの出来る機能も付いています。約2500社がエントリーする、アジア最大規模のアワードでこのような評価をいただけたことは、当社としても大変嬉しく思います。

——アイNZのホームページ上では「お客様の“よかったSmile”のために」と大きく掲げていますが、その言葉が意味するところは。

大森 3年前、アイNZは創業135年という節目を迎えましたが、その際に我々の仕事（生業）とはどういうことなのか、もう一度原点に立ち返るべきではないかという想いで再整理をしてきました。

そのように考えていくなかで、アイNZの仕事というのは、お客様がアイNZと付き合っただけで良かった、対話して良かった、仕事を任せて良かったなど、お客様のビジネスを成功へ

と導くのが使命ではないかということに至りました。

また、滋賀は近江商人発祥の地ですが、近江商人といえば「三方よし」という言葉もあります。事業を継続するためには、社会のなかで存在していく価値や意味も重要になるでしょう。

135年目を迎えた年にスローガンとして掲げた“よかったSmile”ですが、現在は企業理念もそれに倣い「すべてのステークホルダーの“よかったSmile”のために私たちは存在する」と新たに設定し直し、日々の事業に取り組んでいます。

——“よかったSmile”を企業理念に掲げたとのことですが、それ以前にも大森社長がCSRを意識するような機会があったのでしょうか。

大森 大きなきっかけがあったわけ



“よかったSmile”を理念に掲げる大森社長

形状サイズも自由自在の「特型パッケージ」

ではありませんが、2008年にスタートさせた「アインズ・エコプリント・プロジェクト」の立ち上げが大きな一歩でした。

1993年の頃から木製パレットを廃止したことにはじまり、有害な廃液が一切出ない水なし印刷の導入など、様々な環境保全・環境負荷低減には取り組んでいましたが、時代の求めるものが、従来の消費社会から、持続可能な社会構築の要求へと、高まっていることを強く感じてきました。

そこで、当社が出来る身の丈サイズの活動を始めようということで、①自社の製品における環境負荷低減を考える②当社の製品を通じてお客様の環境負荷低減をお手伝いする③地域社会との共存による企業の環境保全活動、の3つを柱として、「アインズ・エコプリント・プロジェクト」が立ち上がりました。

—— 具体的な活動内容はどのようなものでしょうか。

大森 当社では環境負荷の低減を考える際には、「引き算の責任」と「足し算の責任」を分けて考えています。印刷会社は環境負荷の大きい業種なので、アインズでは再生紙やFSC森林認証紙の採用、水なし印刷の提案など、環境に配慮した様々な環境

負荷低減に取り組んでおり、これがいわゆる「引き算の責任」です。

一方、当社の製品や事業活動を通じて、環境負荷低減をお手伝いして、環境保全への対応を向上させるものが「足し算の責任」と考えています。環境対応への競争力を自社で持つとともに、お客様にも提供する、攻めの姿勢を事業活動に取り入れていきます。

例えば、弊社が考案した寄付金付印刷用紙「琵琶湖環境ペーパー」は、用紙の利用者・製紙メーカー・当社が、用紙1kgあたりそれぞれ2円ずつ、琵琶湖の環境保全活動に役立つ寄付金を捻出する活動です。また、印刷製造過程で発生してしまうCO₂をクリーンエネルギー事業から生まれる排出権で相殺するカーボンオフセットや、CO₂の排出量を製品やサービスに表示するカーボンフットプリントにも、日本水なし印刷協会の審査・認証のもと取り組んでいます。ほかには、緑の募金付エコカレンダーを提案するなど、エコ重視の生活者と企業を結ぶ提案をしています。

—— 印刷会社だから出来る、また印刷会社だからこそ協力の出来る、環境活動に取り組んでいますね。

大森 地域社会との共存による企業の環境保全活動では、2010年に、



「鏡の森グリーン倶楽部」での緑の少年団との交流事業

「鏡の森グリーン倶楽部」を創設しました。当社の裏山を中心に下草刈り・枯れ木の伐採などの森林保全活動に毎年取り組むだけでなく、毎年地元である竜王町の「緑の少年団」に参加している子供たちを招き、樹木探しゲームなどを通じて環境保全の大切さを伝えるとともに、地域との対話を続けています。

また、琵琶湖の水際に広く生育する多年草である「ヨシ」の健全な育成を促すヨシ刈りにも毎年、当社の社員50人ほどが参加しています。ヨシは水質の浄化作用や、魚や野鳥の生育場所として大切な役割を果たしている草ですが、昔は機能が失われる同時期に近江八幡の商人がそれらを刈り取り売っていたものが、今では需要の減少に伴い、放置され

ようになっていました。そのままでは若芽が成長するのを妨げてしましますので、現在は毎年1月にヨシ刈りが行われるようになり、我々も地域住民の一人として協力しています。

—— その他にも地域のマラソンやお祭りへ参加するなど、さまざまな活動をアインズでは展開していますが、これらは大森社長が推進してきたものでしょうか。

大森 私が社長に就任してからスタートした活動もありますが、「アインズ・エコプリント・プロジェクト」は我々が100年以上のお付き合いを続けている企業や地域社会に対して、企業経営またはCSRという枠組みで整理したものと位置づけています。

アインズが商売をさせていたってきた138年の間には、様々な地



琵琶湖の「ヨシ刈り」ボランティア活動

域社会との関わりを持つてきました。当時はCSRという言葉も、その自覚もなかったと思いますが、我々が積み重ねてきたことは間違いなくCSRであり、だからこそ企業として継続することができたのではないのでしょうか。

今、これらの活動を整理することで、我々がやってきた活動が業界のなかでも力となつて、企業の環境競争力の強化にも繋がってきたことを感じています。

企業の環境競争力に繋がるという実感が、社員だけでなく顧客への取り組みにも繋がり、最終的にお客様の「よかったSmile」に集約されることを望んでいます。

——今年度の5月1日からCSR委員会がキックオフしたとのこと
で、より活動が強化されていく
ことと思いますが、立ち上げた
意図や活動をCSR委員長の谷
様にお伺いしたいと思います。

谷 アインズ・エコプリント・プロジェクトは当社の活動に対して社員の理解も得ながら整理してきたものになります。「お客様の「よかったSmile」のために」というスローガンを数年前に掲げた際に、CS浸透委員会をあらたに立ち上げました。そこでは、「お客様の声をアインズ



に聞き出すチーム」、「アインズの声をお客様に届けるチーム」に分かれていましたが、社員からは「CS（顧客満足）を語る前に、ES（従業員満足）を語るべきではないか」という声も上がってきました。お客様の「よかったSmile」を実現するためには、まず我々が「よかったSmile」を享受しなければならぬということですね。

結果として、スマイル委員会が新たに立ち上がったわけですが、活動としては、委員会のメンバーが率先してあいさつ運動の展開や、感謝の気持ちを伝えるスマイルカードを作ってもらうなど、様々な活動を展開してくれました。

そして今年度から、CSとESの両方を包括する形で、新たにCSR委員会が立ち上がる運びとなりました。

た。

——大森社長の考えに対し、社員が会社への自主的な提案や活動を提案するまでに至ったのですね。

大森 会社の経営者として、CSRの必要性について説いてきましたが、社員たちがそれを再認識するだけでなく、自主的に声を発してくれたのは大変嬉しく思います。

今までは、エコ環境という大きな社会課題を中心に取り上げてきましたが、これからは女性の活躍や、高齢者や視覚障がい者に優しいユニバーサルコミュニケーションデザイン、メディア・ユニバーサルデザインといった、新たな社会課題にも対応していかなければなりません。

谷 アインズではCS浸透委員会やスマイル委員会以外にも、印刷事故改善委員会、内部監査委員会など、各部署でそれぞれがCSとESの視点をもち活動が続けてきた委員会もあります。CSR委員会はそれら委員会のすべてを包括し、俯瞰的にチェックする立場を取っています。

また、CSR委員会は、各委員会メンバーに所属してもらうとともに、経営（取締役会）にも直結する形で運用されているので、経営の決定や判断が各委員会、社員にまで浸透する仕組みを採用しています。

キックオフから半年が経ち、今は勉強会などを通じて「CSRとは何か?」、から始めていますが、持続可能な企業活動に向けて、CSRの観点で自社の活動を整理していきたいと思っています。

——最後に今後の展望について、大森社長から一言お願いします。

大森 これからは環境問題だけでなく、高齢化社会や少子化など、様々な社会問題が浮上し、対応が求められてくるでしょう。

印刷会社は社会のコミュニケーションをお手伝いする仕事をしてきましたが、CSRという観点から、これからの社会がかかえる課題解決に、どのように貢献出来るのか、また、そのための基盤や能力をいかに高めていくことが出来るのかが重要となつてくると考えます。

当然、印刷による販売促進の提案・技術の向上なども足元で追求する必要があります。要がありますが、時には、時代が求めるコミュニケーション手法が変わり、ITやデジタルメディアが前面に出てくるケースもあるでしょう。

経営理念「すべてのステークホルダーの「よかったSmile」のために存在する」のもと、持続可能な経営を志すとともに、企業能力も昇華していきたいと思っています。

株式会社ミドリ印刷

本社：福岡市博多区博多駅南6丁目17-12 創業：昭和43年 従業員：90名
代表者：坂本満康 認定取得：2014年3月 <http://www.midori-p.com/>

CSRは、経営者だけでなく

社員全員が一丸となって取り組むべき責務。

——ミドリ印刷ではどのような業務をしていますか。

坂本社長 当社は「いつも、何かのお役にたきたいと願っております。」という経営理念のもと、昭和43年に創業して以来、企画・デザイン・印刷・製本までを担う総合印刷業として取り組んできました。

デジタルデータを直接読み込んで印刷するオンデマンド印刷を、九州で一番に導入し、自費出版や記念誌といった印刷にも対応しています。そのなかには、大手コンビニエンスストアと連携した、年賀状などの仕事もあります。

また、よりインパクトのある印刷物をお求めの方には、UV印刷を使用した特殊印刷をご提案し、カタログやポスターなど、様々なケースで採用していただいています。ホームページなどのウェブ、AR（拡張現実）

などのクロスメディア展開にも取り組み、弊社でもオリジナル性のあるものを検討しながら、スピード感を持って取り組んで参りました。

——オリジナル製品では、ハサミやカッターを使わずに開封できる「よかメール封筒」がありますね。こちらの製品が生まれたきっかけは。

坂本会長 2003年にスタートした製品ですが、当初は「はさみやカッターも使わずに封筒が開封出来れば面白いよね」という単純な発想から生まれたので、大々的に考えていたわけではありませんでした。

しかし、新商品を作るためには専用の機械が必要なので、大変苦勞をしました。試作機から数えると、今まで十数台の機械を作ってきました。よかメール封筒は封筒の頭の部分を摘まむことで簡単に開封が出来る商

品ですが、誰でも簡単に開封できるということは、販促面だけでなく、CSR面でも非常に役立つ商品です。ミドリ印刷と取引のある企業全社に、よかメール封筒を使用して戴いており、お客様で販売枚数も3000万枚を突破しました。

これからはさらに生産機械のスピードをあげることを考えながら、より人に優しく、より使いやすい仕様やデザインを考え、検討を重ねて行きたいと考えています。

——この度はCSRワンスター認定を取得しましたが、その理由をお聞かせください。

坂本社長 10年以上前からミドリ印刷では、ISO認証やプライバシーマーク制度といった第三者機関の評価をいただけてきましたが、今回のCSRワンスター認定はそれらをまとめて再評価していくことに繋がる

と考えています。今まで取得した認証は製造業に携わる、印刷会社としての評価でしたが、CSRワンスター認定を取得したことは、言い換えればミドリ印刷という企業全体としての評価をいただいたことと捉えています。

CSRワンスター認定にあたっては堤工場長補佐を中心に書類整理にあたりましたが、特別に新たな事業や取り組みをしたということはありませんでした。

堤工場長補佐 CSR認定は①コンプライアンス②環境③情報セキュリティ④品質⑤雇用・労働安全⑥財務・業績⑦社会貢献・地域志向⑧情報開



2013年に代表取締役役に就任した坂本満康社長



示・コミュニケーション、という8つの項目に沿いながら、チェックリストで見直していくものでしたが、実際取り組んでみると、チェックリストで求められるものは、どれもミドリ印刷が創業当時から取り組んできたものばかりであることに気がつきました。証拠として写真や書類などの記録を出す必要はありましたが、認証自体の理解もしやすく、取得まではスムーズに進むことが出来ました。

——顧客からの反応はいかがでしたか。

坂本会長 CSR認定は先進的な取り組みであり、他の資格認定に比べれば、まだ広く社会に浸透しているとは言えない状況です。ただ、弊社では会社の入口にポスターを掲示することで、ミドリ印刷が九州で初めてのCSRワンスター認定企業になったことをお伝えすると同時に、

名刺にもマークを付けているので、お客様のほうから「このマークは何ですか？」とお訊ねいただくケースは多いです。

弊社が率先して取り組んだことで、業界内でCSRが浸透するだけでなく、ステークホルダーの目に留まって、より大きくCSRの取り組みや理解が広がっていくことに期待をしています。

——お話を伺っていると、オンデマンド印刷やCSR認定など、ミドリ印刷では何事にも率先して挑戦していく風土を感じますね。

坂本会長 常に何かで一番を目指していく、というのが会社方針のひとつでもあります。そのためには社会で求められるものに対して挑戦し、常に改善していく必要があるでしょう。

ただ、その結果が自称ナンバーワンや、自己満足で終わっているという説得力が生まれません。それを前提に考えていけば、ISOやCSRなどの第三者認証を得ることは一つの証明にもなります。

環境対応においても、従来のISO認証、環境保護印刷（クリオネマーク）認証に加え、日本印刷産業連合会が推進する、「グリーンプリンティ

ング制度」も今年の9月に取得しました。

——創業当時から積み重ねが今回の取得に繋がったとのことですが、ミドリ印刷ではどのようにCSRの考えを伝えてきましたか。

坂本社長 ミドリ印刷では、人としてどうあるべきか、社員としてどのように行動するべきかなど、一般常識や倫理的なことを織り交ぜた、人としての根本を説く、弊社オリジナルの『行動規範書』があります。本社や工場での朝礼、および月3回の全体朝礼でも、この行動規範書を読んでもらっていますので、そこが社内啓蒙のひとつになるのではと思います。

また、朝礼では会長や社長だけでなく、各従業員によるフリースピーチの時間も設けていますので、そこで我々経営陣の考えを伝えるだけでなく、従業員からの声を全体に発信する機会を作り、全社的に心を一つに向けていくようにしています。

——全体となると、従業員の皆さんも大変緊張すると思いますが、自身の意見を全体へ発信するのは非常に貴重な機会にもなりませんか。

坂本会長 入社以来、順番ですつと

やっていたので、最初は緊張しますが、段々と慣れてきますので、言いたいことを言ってもらえていると思います。

仕事のなかで気づいたことを話す人、プライベートで起きたことから仕事にも生かしたいことを伝える人など、自由に話していただいていると思いますが、少しずつ共有が出来ると思います。

堤工場長補佐 入社したばかりの人は難しいと思いますが、日々仕事をしていくなか、新たな挑戦を重ね、失敗や学びを得ることで「これはこういうことか」という気づきが必ずあると思います。

当社では『CSR・環境報告書』も発行していますが、こちらはお客様に配るだけでなく、完成したら弊社の社員へ最初に渡します。行動規範書やCSR・環境報告書の発行を続けることが、社員にも理解と協力していただける体制づくりに繋がってきたのではないのでしょうか。



工場長補佐の堤正毅さん



毎年実施される全員参加の慰安旅行

——考えを共有することも大事ですが、社員が働きやすい環境を整備することも大事だと思います。ミドリ印刷ではどのような取り組みをしていますか。

坂本会長 2013年、社長を交代するにに合わせて、新本社屋を竣工しました。設備としては、LED照明の採用や太陽光パネルの設置、複層遮熱ガラスの採用など、エコな社屋となつていますが、3階にはコミュニケーションスペース、トレーニングジムを開設し、

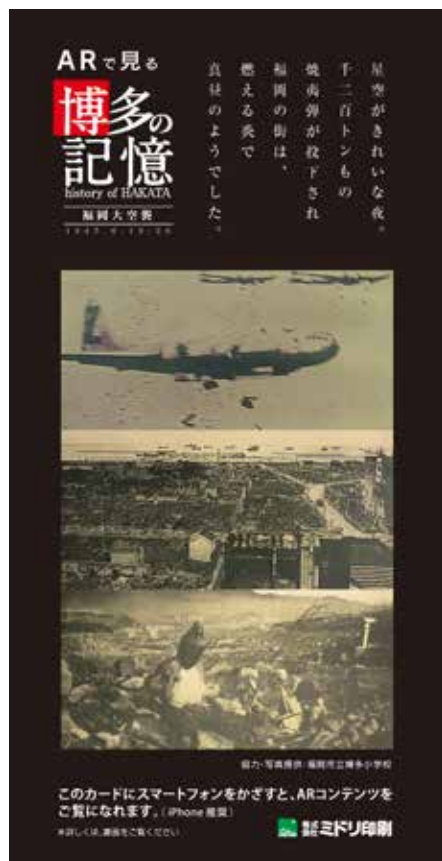
雰囲気明るくなるだけでなく、社員にとっても過ごしやすい社屋に生まれ変わりました。また、福岡市が運営する「子育て応援宣言」へ賛同し、ミドリ印刷で働くお母さんのサポートをしているほか、社員全員参加の慰安旅行や年中行事なども活発に行っています。

坂本社長 ミドリ印刷も大分若返りが進み、年齢層も幅広くなってきました。世間一般には、若い人の不参加など慰安旅行そのものが無くなりつつあると聞きますが、100人規模の会社で毎年の慰安旅行への出席率が100%近い会社は滅多に無いと、旅行会社の方にも驚かれます。

——地域への取り組みでは、インターシップの受け入れ、工場見学の実施、福岡大空襲の証言を伝える『平和学習ARカード』の無償作成・配布、九州大学百年記念事業への寄付など、多岐にわたる取り組みが見られますね。

坂本会長 当社は、様々な企業と取引をさせていただいています。活動が特定の分野だけに縛られないのは、ご縁をいただいたことをきっかけとして活動しているからではないでしょうか。

地域企業として、ミドリ印刷が協力出来る事には、積極的に協力をしたいと思っています。——最後にお三方からそれぞれ、今



後の展望をお聞かせ願えればと思います。

坂本社長 CSRというのは経営者だけでなく、社員全員が一丸となり取り組むべき責務です。

個人では、人としてのモラルや道徳をしつかりと考えなければならぬでしょう。意識を高く持ち、自ら行動して、結果的にクライアントにも協力していただくことで、社会貢献に繋がっていくものと思います。

また、積極的にCSR認定制度に参加する企業が増えて行くことは、私たちの業界が底上げされることだと信じています。各企業が当たり前前のことを当たり前に取り組めば、最終的には認証や認定のいらぬ世の中になるかもしれません。

我々は福岡の小さな会社ではありますが、無理のない範囲でCSRを

がるのが、一番良い形ではないでしょうか。

私は一社員として、日々の仕事を真面目に続けていくことで、CSR活動を支えていきたいです。

坂本会長 朝礼でのスピーチや行動規範書、日々の会議などを通じて、私の想いを伝えてきましたが、それらが社員全員に少しでも伝わっていれば大変嬉しく思います。

ミドリ印刷の取り組みは国や大企業から見れば本当に小さな活動ですが、しかし、我々は一企業として、PDCAを絶えず回し、改善を続けなければいけません。

CSRを続けることはわが社のためにもたいへんプラスになることですが、その活動がゆくゆくは社会全体のためになれば幸いです。

考え、永続的に取り組んでいこうと思います。

堤工場長補佐 ミドリ印刷は企業を中心とした生産活動をしています。弊社が利益を追求するなかで、取引先も利益を上げ、その結果が自然と社会の貢献に繋

CSR元気企業紹介「この会社に学べ！」

株式会社ムトウユニパック

「3KM」に基づいた会社づくりと武藤流「人財教育」。

社員の家庭に「幸せを創りだす」ことも社会貢献。

株式会社ムトウユニパックは東京都

江東区に本社を置く老舗封筒メーカー。二代目社長である武藤佳資社長のもと、千種類を超える製品群を有し、社会と顧客のニーズに対応してきた。今年で創立66周年を迎えたムトウユニパックの「3KM」に基づいた会社づくりと、武藤流の「人財教育」について話を聞いた。

ムトウユニパックでは社員同士の交流や助け合いを通じた会社づくりが行われているが、武藤社長自身も積極的に社員と関わり、自らの言葉で考えを伝えていくのも大きな特徴である。

「『事業は人なり。』という言葉が示す通り、事業、そして企業は人が作るものです」。武藤社長は「そう考えて行くと、企業の業績も人のレベル次第ということですよ。また、結果が付いて来れば、決算という形で出てくるでしょう。社長の仕事はたくさんありますが、人材の材を財産の財に変え、人を育てていくことは、大きな使命ではないでしょ

うか」と語る。

その言葉通り、武藤社長の人財教育にかけけるエネルギーは、非常に大きなウェイトを占めている。新卒社員セミナー／中途採用者セミナーでは、武藤社長が教鞭をとり、3KMの考え方を伝えるとともに、充実した人生を送るための教訓や考え方を伝えている。とくに、新卒社員セミナーにおいては、1日6時間以上を1週間にわたり、武藤社長が講師を務めることもあるという。

「大企業が世界に向けたCSR活動を展開するのもひとつの社会貢献です。しかし、CSRの捉え方は企業によって違いますので、我々のような中小企業の場合は、もっと小さな社会を捉えていくことも必要ではないでしょうか。そして、その最も小さな社会、第一歩こそが、自社の社員に対してではないかと私は思います」

「3KM」とは、個人・家庭・会社の3つのKと、目標（Mark）・管理（M

anagement）・意欲（Motivation）の3つのMから成る、社員教育および社員自身の成長に必要とされる、株式会社土屋ホールディングスの創業者である土屋公三氏が考えた経営プログラム。

3つのKをそれぞれ、円Ⅱ歯車としてバランス良く考えていきながら、3つのMに基づき実行していくもので、奥貫猛常務は「例えば、個人の健康状態、家庭の問題、会社の経営状況。このいずれかが脅威にさらされて、円の大きさがバラバラになっていては、歯車は不協和音を発してうまく回転しません。3つが同じ大きさで揃うことにより初めて安定し、結果が付いてくるようになります」と話す。

そして、ムトウユニパックではこの3KMの考え方を、武藤流に昇華させて運用している。3つのKから成る3つの歯車を重ね、同心円を描かせることを究極の3KMだと定めたのだ。

「円熟、円満、円滑という言葉もそう

ですが、円は中国でも最高の形とされています。各々の家庭の流儀なども当然ありますが、同心円を描くことが出来れば、最も合理的な形で個人・家庭・会社を回すことが出来るでしょう」と分析した。

同心円に近づけるための活動は、武藤社長自身も率先して行っている。そのうちのひとつが、結婚・子育てをする夫婦への支援である。

結婚報告を受けた武藤社長が必ず開くという食事会では、結婚を控えた2人を招いた食事の席を設け、結婚の現実や心構えにも触れながら、夫婦円満の秘訣を社長自らが伝える。その結



社長自ら教鞭をとり社員の子どもに教える「子どもセミナー」



人財教育の重要性について語る武藤社長

果が功を成してか、ムトウユニパックでは社長がスピーチした約50組の夫婦がいるが、アドバイスが効いてか、いまだ離婚した夫婦は一組もない。

また、子どもの早期教育の重要性を知ってもらうために、子どものいる社員を中心とした、子育てセミナーを定期的に開催し、家庭と個人の幸せを後押ししている。

「社長自らが子育てセミナーの講師に立つ会社はそう無いでしょう。しかし、回りがやらないから必要ないということでは決してありません」と武藤社長。自身の子育てや孫の教育に基づく経験値、多数の教育本を読んできた知識を社員に伝えている。「ゴールを目指して合理的に行動する」「知識不足がムダに時間を浪費する」「親が成すのは『teach』ではなく、『coach』である」。武藤社長はセミナーを通じて多くのことを伝えている。

「子を育てるのは親です。親の知性が子に移ると言い換えても良いでしょう。」

子供が勉強する前に、まず親が勉強しなければいけません。CSRということでは無いかもしれませんが、大変意味のある活動だと私自身も考え、継続しています」と武藤社長は述べた。

3KMの同心円を描くための活動には武藤社長だけでなく、社員同士やムトウユニパックが主催・企画する活動も当然含まれている。

家庭への支援では、使わなくなった子供用の古着や絵本を会社で回収し、年齢ごとに分けて再分配している。これから子育てが始まるだけでなく、ぐんぐんと体と心の成長を続ける子供を持つ社員に、大きな好評を得るとともに喜ばれている。

同社で行なわれているスポーツ活動の一つであるゴルフでは、50人近い社員がゴルフイベントに参加するだけでなく、ゴルフ部では実業団カップにも8年連続で出場している。スポーツを通じて交流を深めるだけでなく、実業団カップという一つの大きな目標を持つことで、部署の垣根を越えたチームワークの形成に一役買っている。

さまざまな活動を続けるなか、ムトウユニパックが開いた近年における最大規模の企画が、創立65周年を迎えた際に開かれた記念式典である。「カゾクdeイネ」をテーマに従業員の家族も招待し、総勢700人の参加者となっ

た本企画は、65周年を記念したアート作品を社員から募集したほか、式典当日はボランティア団体の協力のもと、子供たちが遊ぶための積木広場も用意され、ムトウユニパックの社風を表す、笑顔に溢れた会になった。

須崎春雄執行役員は「社員にはご家族が居ますが、社員だけでなく、そのご家族を含めた『幸せを創りだす』ことを社長が率先しながら、教育や各種行事の開催をしています。すべては地道な活動ではありますが、これもわが社が出来る、大きな社会貢献だと考えています」と話した。また、武藤社長は「会社を一つのファミリーとして考えれば、社長は家長にあたります。子供や孫の幸せのために何が出来るか。社員には幸せになってもらうとともに、『ムトウユニパックに入って良かった』と言える会社を作っていきたいと思えます」と語った。

小さな第一歩として、社員に対する貢献を続けているムトウユニパックだが、地域や社会に対する取り組みも展開している。

東京都の消防団には、ムトウユニパックの社員から常に5人以上が在籍し、台風や地震といった自然災害に伴う緊急指令時に出勤している。消防団とは先代社長の武藤庄一相談役の頃から関わりが深く、武藤相談役は東京都消防

協会の会長を務め、全国96万人の消防団のトップに立った経歴もある。

また、今年度より江東区が始めた江東ブランド推進事業のなかで、ムトウユニパックは「江東ブランド企業」として認定され、企業と江東区のイメージアップに寄与する活動へ参加した。今年度認定の21社は、2020年東京オリンピックに向けて江東区をどのように盛り上げていくか、会合を重ねながら取り組んでいくとしている。

そのほかにも、毎朝の町内での清掃活動、江東区民まつり中央まつりへの参加、小中学校の職場体験など、多数の展開が続いている。

武藤社長は「今の時代に会社を大きく成長させることは容易ではありません。しかし、良い会社に育て、社員を幸せにすることは可能です」と話しながら、次のように取り組みを伝えた。

「ムトウユニパックを訪れたお客様からは、『ムトウさんの社員は皆同じ顔をしているね』という評価をいただくこともあります。社員が一体となり、志を共にしているからこそその言葉がもしれません。会社を大家族として考えれば、私は皆のお爺さん。息子や娘、孫がどうしたら喜び、幸せになつてくれるのか。私の知識や想いを伝えたいと、これからも実現していきたいと思えます」

よいものだけを・・・

株式会社 **ムトウユニパック**

MP
UNIPACK

誠心 誠意 誠実に ― 封筒を作り続けて66年。
その実績をいかし、私たちはこれからも時代に合わせた商品作りをしてまいります。



松木工場



野木工場



青島工場 (中国)

【主な取扱品目】

●封筒全般 ●名刺・カード・はがき ●手提袋 ●その他各種紙製品 ●SP商品 ●DM発送代行サービス



株式会社 **ムトウユニパック**
<http://www.mutoh-u.co.jp/>

本 社／〒135-8480 東京都江東区永代1-7-12 TEL 03-3642-1141 (代表)
支店・営業所／東京中央・城西・城南横浜・千葉・四ツ谷・さいたま・松木・前橋・新潟・大阪
工 場／東京・松木・野木・中国青島

つながって、
価値は生まれる。

一つひとつの"音"がつながって、
豊かな"メロディ"となるように、
一人ひとりの知がつながれば、
きっと新たな価値が生まれる。
人と人、人と社会をつなげるために
富士ゼロックスは、これからも
より良いコミュニケーション環境の
構築を目指してまいります。



富士ゼロックス株式会社 www.fujixerox.co.jp/ 〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3
ご意見、ご相談などはお客先相談センターへ。0120-27-4100 [受付時間] 9:00～12:00 / 13:00～17:00 (土・日・夜除く)
Xerox、Xeroxロゴ、およびFuji Xeroxロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。

FUJI xerox

全印工連CSR認定 ツースター2社、ワンスター5社を認定

全日本印刷工業組合連合会CSR認定制度の第10期ワンスター認定に(株)荒川印刷(愛知県名古屋)、富士精版印刷(大阪府大阪市)、(株)明朗社(愛媛県伊予郡)、西日本ビジネス印刷(福岡県福岡市)、(株)啓文社(熊本県上益城郡)の5社が認定された。

また、第2期ツースター認定に(株)マルワ(愛知県名古屋)、杉山メディアサポート(静岡県浜松市)の2社が認定、第2期ワンスター認定更新企業として18社が認定された。

これにより、10月現在でCSR認定企業は計91社となった。

全印工連CSR認定制度 印刷文化典で特別賞を受賞

業界初となる企業の社会的貢献を評価する制度「全印工連CSR認定」を展開する、全日本印刷工業組合連合会は9月16日、東京・千代田区のホテルニューオータニで開かれた、日本印刷産業連合会設立30周年式典印刷文化典において、特別賞として表彰された。

式典当日は、全日本印刷工業組合連合会を代表して、池田幸寛常務理事(CSR推進専門委員会委員長)が稲木歳明日本印刷産業連合会会長から賞状を受け取った。

エコプロダクツ2015 12月10日からビッグサイトで

第17回エコプロダクツ2015(主催・産業環境管理協会、日本経済新聞社)が12月10日から12日までの3日間、東京ビッグサイトで開かれる。エコビジネスの商談・取引を目的とする企業・団体が出展するエコビジネスEXPOや、環境製品・技術、CSR先進企業の取り組みなどを紹介する環境総合ゾーンからなる参加体験型の環境イベント。開場時間は10時から18時(最終日は17時まで)。入場無料。

今回のテーマは「わたしが選ぶクールな未来」。会場の東1〜6ホールには、さまざまな業種の企業、大学・研究機関が日本全国から出展。企業活動の環境負荷、エネルギー消費とコストを下げるための最新の環境技術・エコプロダクツが一堂に会する。

また最新のエコプロダクツと多

彩な体験型展示でエコを体感でき、エコライフ実践のヒントが得られる。環境や社会を考えた「エシカル」消費の最新トレンドも紹介される。

印刷関連では、日本印刷産業連合会、日本WPA、大日本印刷、トッパングループ、久栄社、クラウン・パッケージ、佐々木印刷、新日本印刷、プレシーズ、リンテックほか、インキ、紙、機器メーカーが出展する。

経済産業省 平成27年度 なでしこ銘柄を選定開始

経済産業省は、東京証券取引所と共同で、女性活躍推進に優れた企業を選定する、平成27年度「なでしこ銘柄」を実施する。24年度より選定してきた取り組みとなるが、今年度は、これまで東証一部に限っていた選定対象を拡大して行うとともに、なでしこ銘柄選定に関する女性活躍度調査を実施する。

「なでしこ銘柄」は女性活躍推進に優れた上場企業を、中長期の企業価値向上を重視する投資家にとって魅力ある銘柄として紹介することを通じて、企業への投資を

促進し、各社の取組を加速化していくことを狙いとしている。

なお、今年度の「なでしこ銘柄」の発表は、2016年3月16日を予定している。

帝国データバンク マイナンバーに対する意識調査

帝国データバンクの「マイナンバー制度に対する企業の意識調査」によると、有効回答企業数1万838社のうち、マイナンバー制度について「内容も含めて知っている」という企業が75%と浸透しているものの、「対応を完了した」企業は6.4%と、4月調査時点に引き続き1割に満たない状況が続いている。

また、対応を検討・進めているとした「対応中」は65.9%となつたが、「予定はあるが何もししていない」と21.6%の企業が回答し、10月時点でもマイナンバー制度の対応を開始していない企業も多い。

ただし、同制度への対応状況について、現時点での進捗率は平均47.6%となっており、4月時点(8.9%)と比較すると38.7ポイント上昇した。

CSRに取り組むお客様の 印刷製品づくりを応援する それがCSRマークです。



印刷製品へのCSRマーク表示例

CSRに取り組む印刷会社に仕事を頼みたい。
印刷製品にCSRに取り組んでいる**マーク**を
つけたい。

でも、どこに発注すればよいかわからない。
そんな要望にお応えするのが

CSRマークです。

CSRマークは、印刷業界のCSR基準を達成した印刷会社がつけることができる信頼のマークです。

〈特徴〉

- 公正で信頼できる制度
- CSR研究の第一人者である横浜市立大学の影山教授監修のもと設計された基準を達成した印刷会社を客観的に審査
- 横浜市立大学CSRセンターが審査を実施し外部の有識者で構成される認定委員会で判定
- 基準はすべてホームページで公開
- 認定企業に発注すれば、無料でCSRマークの使用が可能
- CSRマークは印刷会社のCSRの取り組み度合いにより3種類
- 認定番号管理により社会的信頼性を確保

■問い合わせ先

全日本印刷工業組合連合会CSR認定事務局
〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8
TEL.03-3552-4571 FAX.03-3552-7727
<http://www.aj-pia.or.jp/>

認定企業一覧 (2015年11月現在)

ツースター認定 (2015年11月現在 14社)			
福 島	(株)日進堂印刷所	東 京	文唱堂印刷(株)
神奈川	(株)協進印刷		新日本印刷(株)
	(株)大川印刷	愛 知	(株)マルワ
長 野	亜細亜印刷(株)		(株)二和印刷紙業
静 岡	杉山メディアサポート(株)	滋 賀	アイズ(株)
東 京	池田印刷(株)	広 島	(株)ユニバーサルポスト
	六三グループ	香 川	(株)ミヤプロ
ワンスター認定 (2015年11月現在 77社)			
北 海 道	(株)ヒロミ産業	東 京	弘和印刷(株)
	(株)プリプレス・センター		滝澤新聞印刷(株)
	(株)アイテックサプライ		(株)木元省美堂
	中村印刷(株)	愛 知	木野瀬印刷(株)
	(株)正文舎		プリ・テック(株)
	北陽ビジネスフォーム(株)		半田中央印刷(株)
宮 城	植平印刷(株)		豊橋合同印刷(株)
	(株)東北プリント		(株)愛知印刷工業
	(株)ユーメディア		(株)荒川印刷
秋 田	秋田印刷製本(株)	三 重	伊藤印刷(株)
山 形	(株)青葉堂印刷	岐 阜	(株)岐阜文芸社
埼 玉	望月印刷(株)		トーヨー印刷(株)
	(株)アサヒコミュニケーションズ		ヨツハシ(株)
千 葉	(株)太陽堂印刷所		協同印刷(株)
神奈川	(株)総合印刷新報社	富 山	第一共同印刷(株)
	関東プリンテック(株)		朝日印刷(株)
	(株)野毛印刷社	石 川	(株)笠間製本印刷
新 潟	(株)第一印刷所	京 都	(株)太洋堂
	(株)プレスメディア		泰和印刷(株)
	(株)太陽印刷所		(株)タイム
	(株)第一製品流通	大 阪	相互印刷紙器(株)
静 岡	(株)あけぼの		富士精版印刷(株)
	(株)きうちいんさつ	兵 庫	船場印刷(株)
	日本レーベル印刷(株)		交友印刷(株)
	日興美術(株)		丸山印刷(株)
東 京	(株)中央パッケージング		(株)天理時報社
	(株)金羊社	奈 良	(株)アイブリコム
	大同印刷(株)		共同精版印刷(株)
	(株)賢工製版		岡村印刷工業(株)
	システム印刷(株)	和歌山	(株)和歌山印刷所
	(株)ウエマツ	岡 山	研精堂印刷(株)
	(株)白橋	愛 媛	愛和印刷(株)
	水上印刷(株)		(株)明朗社
	三報社印刷(株)	福 岡	(株)ミドリ印刷
	創文印刷工業(株)		(株)博多印刷
	(株)アドピア		西日本印刷工業(株)
	荏原印刷(株)		西日本ビジネス印刷(株)
	壮光舎印刷(株)	熊 本	(株)啓文社
	(株)五色		

※都道府県内は認定番号順